

日本型永続経営体ラボ

A Laboratory for Long-lasting Business Entities, a la Japonaise



【概要】

我が国には、欧米と異なる日本的資本主義精神が古くから存在しています。それは、聖徳太子の十七条憲法にある「和をもって貴しとなす」という根本原理です。下って、江戸時代に生まれた鈴木正三や石田梅岩といった思想家の職業倫理感も、現在に受け継がれています。法人も個人と同様、社会に貢献しそれぞれの役割を果たしていくことで、調和の保たれた世界が作れるという思想が、日本的資本主義精神の 基本にあると考えます。明治維新以降、急速に欧米文化を導入して発展することが出来たのは、太古の昔から積み重ねてきた日本の素晴らしい文明があったからといえるでしょう。

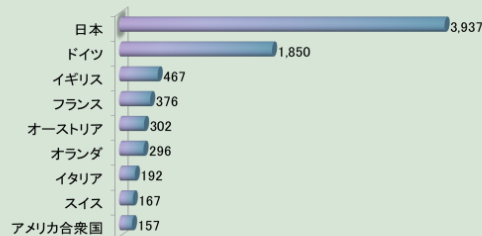
【研究課題】

「日本型永続経営体ラボ」は、欧米の金融資本主義が大きな転換点に差し掛かっている現在、これから世界が向かうべき資本主義の根源的なあり方として、地域社会との共生と社会貢献を企業の本分とする永続性を重視した日本型経営を研究する事によって、これからの世界が向かうべき企業の真の方向性を探求していきます。

研究代表者：教授 当麻哲哉、SDM研究所顧問 吉田篤生

わが国は、世界的にも希な老舗企業大国

各国の創業200年以上の企業数



2012年1月末時点 日本経済大学後藤俊夫教授による集計



吉田篤生 SDM研究所 顧問 (吉田篤生会計事務所 所長・税理士)からのメッセージ

本ラボを立ち上げた目的は、文明を近世ヨーロッパから発した資本主義の論理とは別の次元のものと捉えるところからスタートしています。民主主義と資本主義は、同一のものではありません。全ての人々が幸せに生きることが、技術革新による産業化の推進とイコールではないことと同じです。企業経営の本質は、人々の幸せに貢献することにあると考えます。「日本型永続経営体モデル」に、民主主義と資本主義を融合させた経営の本質を見ることが出来ると思っています。